

狩小屋沢

報告：松原

- ◆日程 2009年8月1日(土)～8月2日(日)
- ◆メンバー L：阿部、古川幹、菅野、戸田、松原
 - ・ 行きの環八・関越の渋滞。
 - ・ 檜俣川本流は岩魚釣れるが、狩小屋沢には魚影あるも釣れず
 - ・ 蚊・ブヨ多し。松原受難。月曜日に皮膚科。
 - ・ 入渓後暫くは貧相。ところどころ小規模ながらナメ滝あり。
 - ・ 1箇所、ロープ出す。ここで帰りも懸垂。

8月1日(土) 曇りときどき雨

9月のネパールトレッキングに備えて、この週末は家内と北岳で高所順応訓練をする予定であったが、8/29-30の別件の予定が流れたので、スケジュールを組替え、急遽鈴蘭の山行に合流することになった。

8/1の8時に荻窪駅集合。阿部号は環八の渋滞のため30分遅れて到着。駅前のそば屋で朝食を食べる時間ができてちょうどよかった。運転席の阿部さんは昨夜遅くまで支店長と深酒を



してしまったようで、酒臭い息をしており、練馬IC手前で松原が運転を替わる。

休日高速千円の影響か、関越道に乗っても流れが悪い。普段運転に慣れていない車と渋滞のせいで、スペア運転手の松原も眠くなり、途中のPAで古川さんに交替してもらおう。車中、2日間の天気についての話題になり、渋滞による到着遅延と不安定な天気を考慮し、土曜日は狩小屋橋まで歩いて釣りや焚火を楽しみ、日曜日は行けるところまで遡行して同じ沢を引き返すことに決定。焚火BBQと宴会しか楽しみがないかもしれないので、水上ICを下りたところにあるサンモールで食材を買い足し、12:50にゲートに到着した。

昼飯を食べ、身支度を整えて13:10に出発。ダム湖畔に出て眺めがよくなった場所で14:00に休憩していると、小型バイクに乗った釣師が帰ってきた。檜俣川本流で釣ったそうで、成果はあったとのこと。今夜のおかずに期待が膨らむ。

15:30に狩小屋橋に到着。2時間半の林道歩きだった。橋の上でタープを張ったあと、足まわりを替えて入渓。橋の下にいい焚火サイトがあったのでここに薪を集め、各自釣りに散っていった。釣りに出た直後に大粒の雨が降り出し、皆撤収してきた。

結局釣りは諦め、早々に焚火を始めて、サンモールで買ってきた食材を炙り焼きながら宴会。戸田さんが用意したカレーの具を皆で切り、松原農園で今朝収穫してきた茄子も具に加

えて、豪勢な食事になった。

三々五々、橋上のタープに戻って就寝した。

コースタイム：8:00 荻窪駅集合

12:50 林道終点ゲート発 15:30

狩小屋橋着

8月2日(日) 天候 曇り

5時起床と指示されていたが、4時半には明るくて目が覚めた。目の前のタープには無数の虫がとまっている。就寝中に羽音もなく忍び寄り、我々の生き血を吸うドラキュラめ。

嫌な予感がした。顔を触ると予感ハ的中していた。とくに右頬に無数の発疹があり、耳も炎症を起こして右と左の温度が違っていた。古川・菅野・戸田の3人は防虫ネットを被り、阿部さんは防虫スプレーをして寝たので被害が少なかったが、スプレーもネットもなく無防備で寝た松原だけに蚊の攻撃は執拗に続いたようだ。

朝食に山で納豆とは私にとって初めてだが、恒例とされているらしい鈴蘭定食を食べた。10年前の学生時代に全身をブヨやアブに刺されて発熱した際に病院でもらった軟膏を顔に塗って身支度を整えた。7:30に出発。

歩き始めて暫くは藪っぼいゴロで、貧相な溪相だ。ようやく滑床が現れ、時折小滝も出現する。うす茶色の滑床を行くと、右岸から滝を懸ける枝沢が出会う。左岸に大規模な露岩帯が洗われると、横向きの3x10m滝、4m滝、2m滝、滑床15mと小滝が続く。

いくつ滝を越えたか判らない頃、8時頃に7m滑滝に到着。ここでロープを出し、古川さんリードで、松原・戸田・菅野・阿部と続く。とくに難しい箇所もなく超えられたが、むしろ滝上の方が怖い。滝の落ち口もナメで、ヌルヌルしている。2歩踏み出したところで動けなくなった。滑ったらそのまま滝下へドボンだから、じっとして古川さんにお助けスリングを流してもらった。

9:00に二侯着。ここが今日の目的地。一休みして記念撮影していると小雨が降り出してきたので、10分休憩しただけで下降を始める。さっきロープを出したところは懸垂下降し、少し広くなっている所(遡行図では滑床15mとあるあたりか)で一服。すると、風上から異臭が漂ってくる。人数を数えると菅野さんがいない。どうもこの先生、人の上流で大キジを撃つのが好きらしく、下流にいる我々は大腸菌の醸すメタンガスの臭いをかがされてしまう。



芸術家の習性だろうか。

橋が近くなると藪がかぶさってゴーロの荒れた溪相になってくる。以前ゴーロの下りで転倒したのがトラウマになっているのか、ただ単に慣れていないだけか、松原は遅れがちになる。10:50に狩小屋橋着。

橋の下にデポした荷物を回収し、靴を履き替えて11:20に林道を帰り始める。途中、支流として林道に落ちている小滝の水が冷たくて甘くて美味しいので、ここで水を汲んだ。13:45ゲート着。

風呂に入って帰ると、関越は6台の玉突き事故渋滞。渋滞を抜けるのに80分を要した。運転手の古川さん以外、助手席の私まで全員寝てしまったのが申し訳なかった。

今回は私にとって初の鈴蘭山行であった。沢自体は平凡で、過去に遡行した沢と比べて特に美しいとか達成感があったとかいうことはなかったが、生活技術の面でこれまでの自分のやり方とは違いを感じた。これまでは、沢でもテントかツェルトで寝てきたので、防虫ネットを被って寝るという発想はなかった。食事も晩飯は焼き網で各自が持ち寄った食材を炙って食べ、朝飯はうどん・そばというのが定番だったので、ビリー缶を焚火にくべるということもなかった。

こうした違いは、今後の山行の中で吸収していきたいと考えている。今回はいろいろとお世話下さった諸先輩に篤く御礼申し上げる次第である。

余談だが、顔全面と手に無数の蚊の攻撃を受けたが、帰宅後に猛烈な痒さと倦怠感に襲われた。翌日も症状はひどく、会社近くの皮膚科に行った。傷口の大きさと痒みから考えて、蚊ではなくブヨのようだった。この記録を執筆している6日現在、まだ痒みと赤い発疹は完治していない。タープで寝るときは防虫ネット・防虫スプレー・蚊取線香の三種の神器が必需品であると学んだ山行だった。

コースタイム：5:00 起床 7:30 出発 9:00 二俣 9:10
10:50 狩小屋橋に戻る 11:20 13:45 林道終点ゲート着